

けんぽんちやくしよくりょうかいまんだら
絹本著色両界曼荼羅図

- 所在地：高谷1234
(市郷土博物館保管)
- 所有者：延命寺



胎蔵界曼荼羅



胎蔵界曼荼羅（中央部分）

延命寺に伝わるこの両界曼荼羅は、胎蔵界・金剛界とも縦約3.3mという大きなものです。

両界曼荼羅とは胎蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅を総称したもので、密教寺院には欠かすことのできない法具です。真言宗系の両界曼荼羅は、弘法大師空海が唐より持ち帰ったものを基本として制作され、それらを現図曼荼羅と呼んでいます。延命寺に伝わるこの曼荼羅も、現図曼荼羅の系統とされています。2幅とも延命寺に伝世したもので、文亀元年（1501）に真里谷城主源信興が寄進したものと伝えられています。

胎蔵界の諸尊の表現を見ると、面長で額が広い顔、鼻筋を2本線で表すことなど、宋代末期の仏画と共通する特徴を持っています。

本図の制作年代は、表具に相当する部分までも描いている描表装の作品で、文様に切金をあまり用いず、金泥描きであることなどを考え合わせると、南北朝期と考えられ、中世房総における宗教文化史上においても大変貴重な文化財です。